



# ジャンボタニシにご用心!

今年、ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の生息が町内の一部の水田で確認されました。

ジャンボタニシは、養殖目的で輸入されたものが野生化して県内でも岐阜・西濃地域で水稻などを食害して問題となっています。

水田では、移植2～3週間後ごろまでの苗を好んで食害し、ひどい時は苗がほとんどなくなってしまうこともあります。

今後、水路などを通して生息が拡大することも心配されます。水田などで発見した場合、次のことに気を付けて防除や拡大防止に努めましょう!



## 卵は必ずつぶしましょう!

貝、卵塊とも見つけしだいつぶしましょう。  
(寄生虫がいる可能性があるためゴム手袋を着用して行います。)



## 寒さに弱いジャンボタニシ

大部分の貝は、地表面近くの土中で越冬するので、冬場の厳寒期(1月～2月)にロータリー耕を2～3回程度行います。(貝殻が傷つき凍えて死滅するので効果的に防除できます。)



## 貝の行動を制限しよう!

田植え後、20日間にはできる限り浅水で管理します。(水深2センチ以下ではジャンボタニシは活動できません。)

## 水田への侵入を防ぐ!

水田に貝が侵入しないよう、取水口に金網(目合5mm以下)やネットなどを設置し、附着したジャンボタニシを除去します。

## 効果的な農薬散布を!

ジャンボタニシに効果のある農薬を散布して防除します。



## ★ 在来種との見分け方 ★

らせん上部が短い

らせん上部が長い



ジャンボタニシ



マルタニシ(在来種)



在来種は稲を食べたりしない  
イイ生き物だよ!

問い合わせ先:

可茂農林事務所 農業振興課 ☎25-3111

産業建設課 ☎66-2408